

### 3 児童調査結果の分析

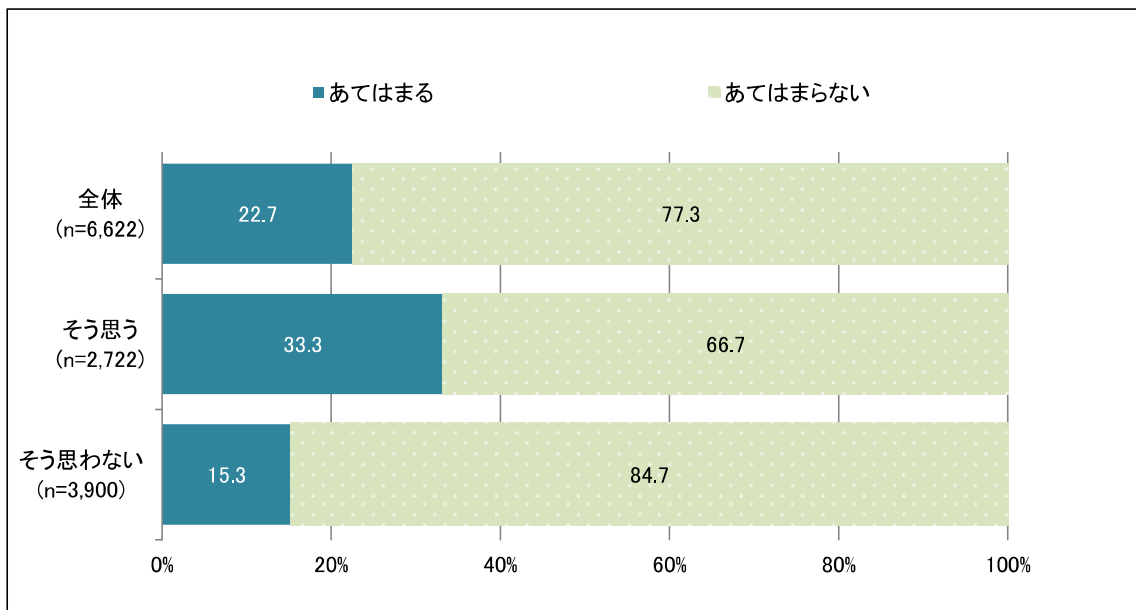
#### ① 性別に関する意識と児童の言動に関する意識の関係

< 仮説・検討事項(1) >

児童が「男の子/女の子だからと思う」ことは、児童自身の言動に影響を与えているか

(7) 性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全体		6622 100.0	1501 22.7	5121 77.3
(1) 「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある	そう思う	2722 100.0	906 33.3	1816 66.7
	そう思わない	3900 100.0	595 15.3	3305 84.7



(図表IV-3-1)

○「性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある」について、全体では《あてはまる》(22.7%)で2割を超えている。

『「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある』の回答別で見ると、《そう思う》では《あてはまる》(33.3%)が3割超え、《そう思わない》(15.3%)が1割台半ばとなっている。

「性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある」について、『「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差(p<0.001)が見られた。

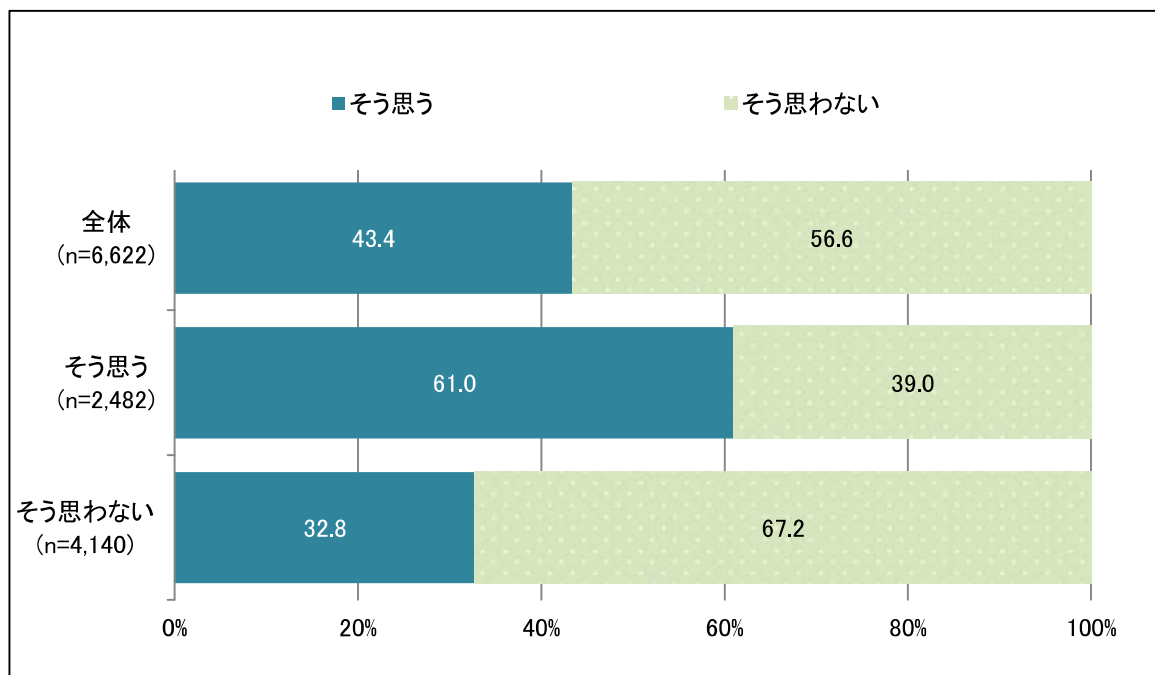
設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.40であり、やや相関が見られた。

< 仮説・検討事項(2)>

児童が「性別で教科の得意、不得意があると思う」ことは、「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」ことに影響を与えているか

(3) (将来の仕事について)性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		6622 100.0	2873 43.4	3749 56.6
(2) 性別で教科の得意、不得意があると思う	そう思う	2482 100.0	1515 61.0	967 39.0
	そう思わない	4140 100.0	1358 32.8	2782 67.2



(図表IV-3-2)

○「(将来の仕事について)性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、全体では《そう思う》(43.4%)で4割を超えている。

「性別で教科の得意、不得意があると思う」の回答別でみると、《そう思う》では《そう思う》(61.0%)が6割超え、《そう思わない》(32.8%)が3割を超えている。

「(将来の仕事について)性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、「性別で教科の得意、不得意があると思う」の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差( $p < 0.001$ )が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.44であり、かなり相関が見られた。

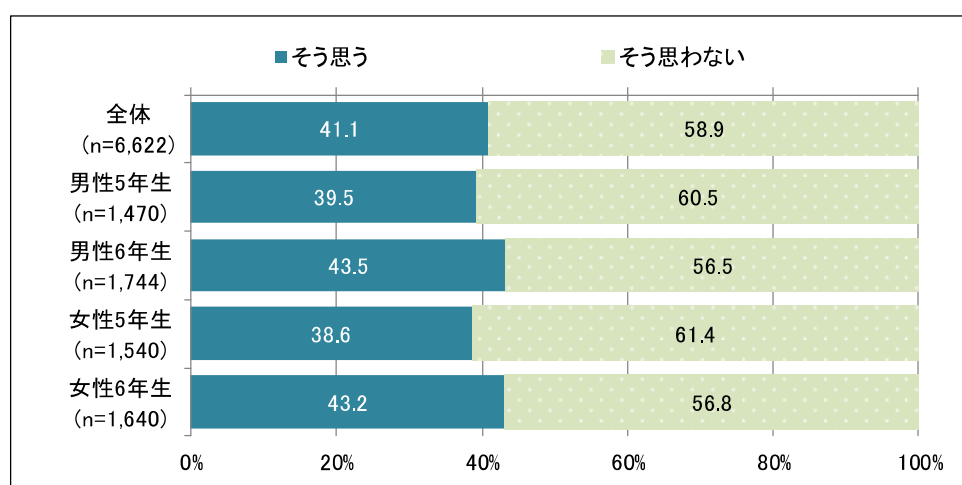
## ② 意識の学年差

< 仮説・検討事項(3) >

児童の学年によって、性別に対する意識の差が表れているか

(1) 「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		6622 100.0	2722 41.1	3900 58.9
性別・学年	男性5年生	1470 100.0	580 39.5	890 60.5
	男性6年生	1744 100.0	758 43.5	986 56.5
	女性5年生	1540 100.0	595 38.6	945 61.4
	女性6年生	1640 100.0	709 43.2	931 56.8



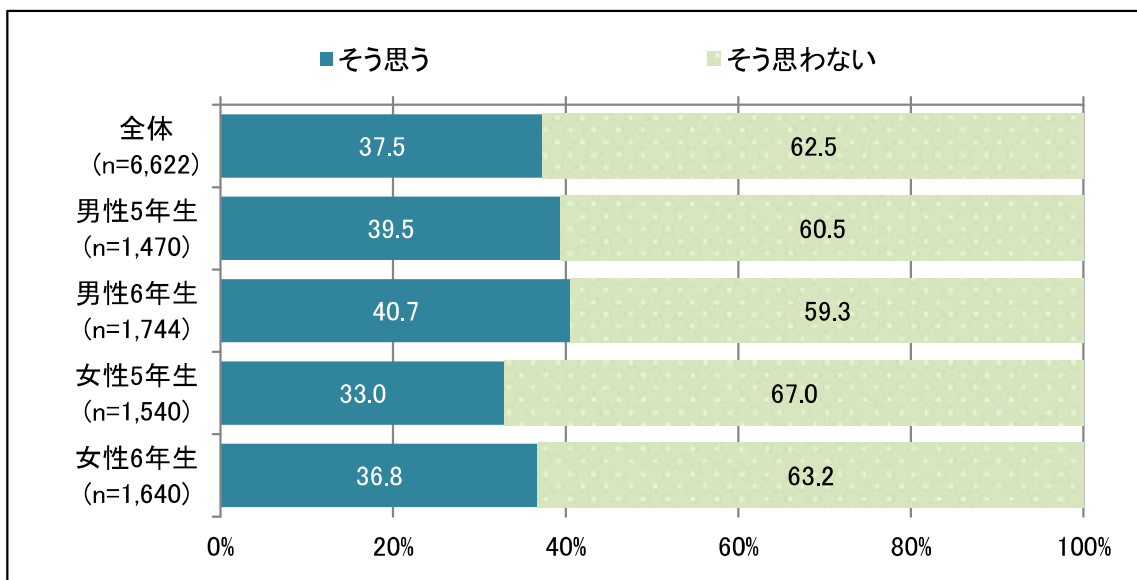
(図表IV-3-3)

○『「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある』について、全体では《そう思う》(41.1%)で4割を超えている。

学年別でみると、男性では《そう思う》について5年生(39.5%)が4割、6年生(43.5%)が4割を超えており、女性では5年生(38.6%)が4割近く、6年生(43.2%)が4割を超えている。

(2) 性別で教科の得意、不得意があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		6622 100.0	2482 37.5	4140 62.5
性別・学年	男性5年生	1470 100.0	581 39.5	889 60.5
	男性6年生	1744 100.0	709 40.7	1035 59.3
	女性5年生	1540 100.0	508 33.0	1032 67.0
	女性6年生	1640 100.0	604 36.8	1036 63.2



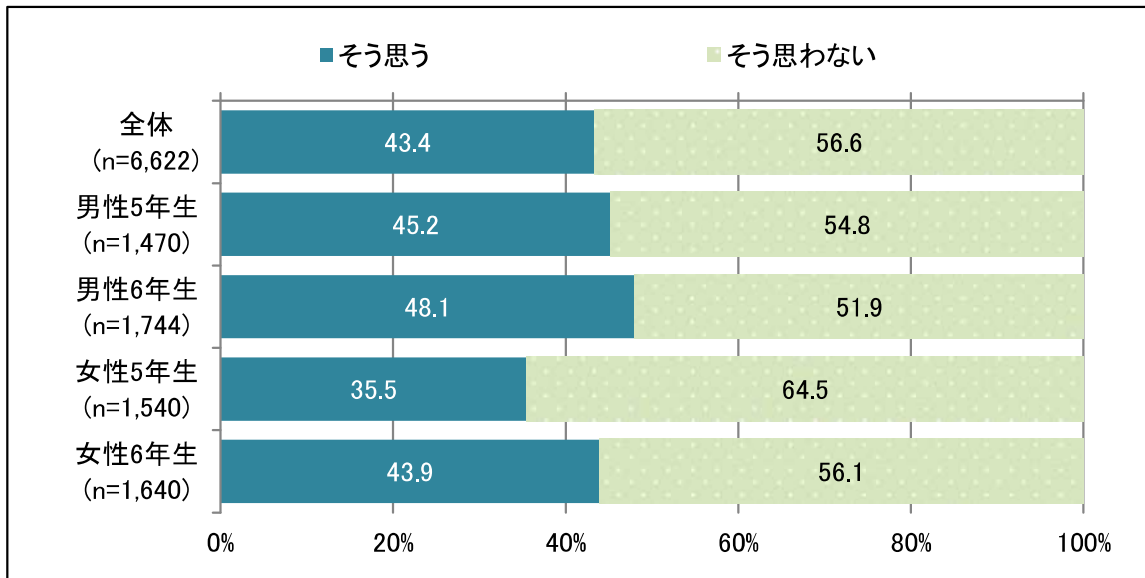
(図表IV-3-4)

○「性別で教科の得意、不得意があると思う」について、全体では「そう思う」(37.5%)で4割近くとなっている。

学年別で見ると、男性では「そう思う」について5年生(39.5%)が4割、6年生(40.7%)がほぼ4割となっており、女性では5年生(33.0%)が3割超え、6年生(36.8%)が4割近くとなっている。

(3) (将来の仕事について) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		6622	2873	3749
		100.0	43.4	56.6
性別・学年	男性5年生	1470	665	805
		100.0	45.2	54.8
	男性6年生	1744	838	906
		100.0	48.1	51.9
女性5年生	1540	547	993	
	100.0	35.5	64.5	
女性6年生	1640	720	920	
	100.0	43.9	56.1	



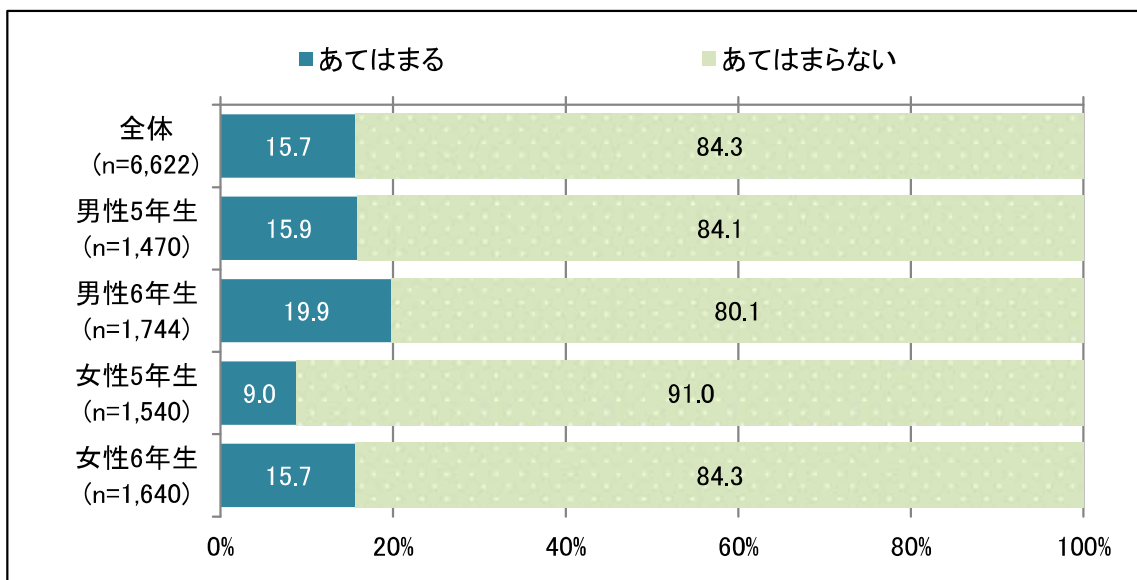
(図表IV-3-5)

○「(将来の仕事について)性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、全体では《そう思う》(43.4%)で4割を超えている。

学年別で見ると、男性では《そう思う》について5年生(45.2%)が4割台半ば、6年生(48.1%)が5割近くとなっており、女性では5年生(35.5%)が3割台半ば、6年生(43.9%)が4割を超えている。

(4) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と先生に言われたことがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		6622 100.0	1040 15.7	5582 84.3
性別・学年	男性5年生	1470 100.0	233 15.9	1237 84.1
	男性6年生	1744 100.0	347 19.9	1397 80.1
	女性5年生	1540 100.0	139 9.0	1401 91.0
	女性6年生	1640 100.0	258 15.7	1382 84.3



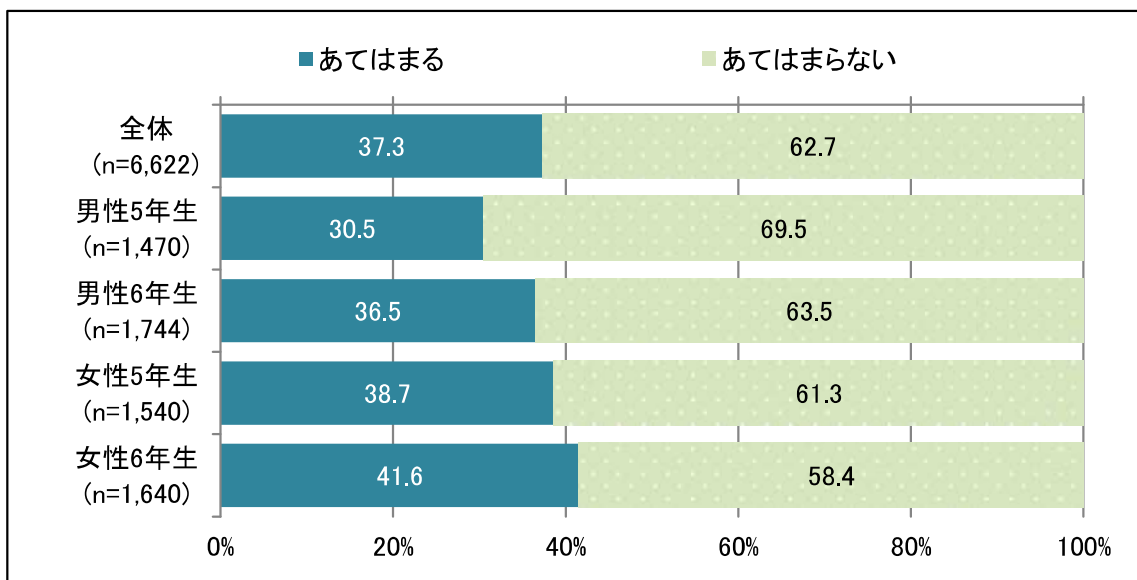
(図表IV-3-6)

○『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と先生に言われたことがある』について、全体では「あてはまる」(15.7%)で1割台半ばとなっている。

学年別で見ると、男性では「あてはまる」について5年生(15.9%)が1割台半ば、6年生(19.9%)が2割となっており、女性では5年生(9.0%)がほぼ1割、6年生(15.7%)が1割台半ばとなっている。

(5) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と親（保護者）に言われたことがある（SA）

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		6622 100.0	2473 37.3	4149 62.7
性別・学年	男性5年生	1470 100.0	449 30.5	1021 69.5
	男性6年生	1744 100.0	636 36.5	1108 63.5
	女性5年生	1540 100.0	596 38.7	944 61.3
	女性6年生	1640 100.0	682 41.6	958 58.4



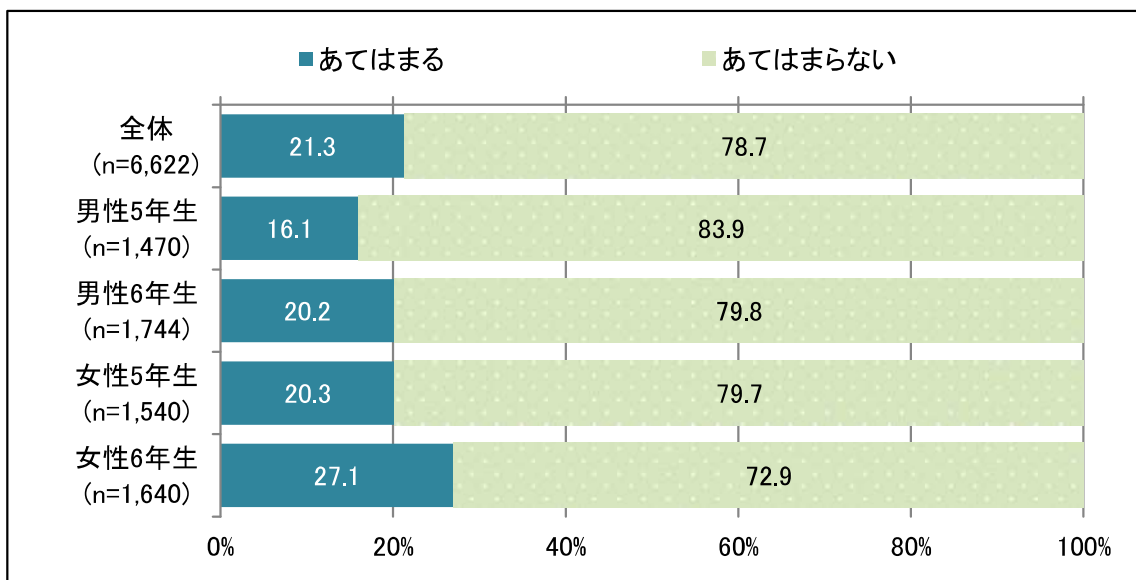
(図表IV-3-7)

○『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と親（保護者）に言われたことがある』について、全体では「あてはまる」（37.3%）は4割近くとなっている。

学年別で見ると、男性では「あてはまる」について5年生（30.5%）がほぼ3割、6年生（36.5%）が4割近くとなっており、女性では5年生（38.7%）が4割近く、6年生（41.6%）が4割を超えている。

(6) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と祖父母や親戚など周りの大人に言われたことがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		6622 100.0	1413 21.3	5209 78.7
性別・学年	男性5年生	1470 100.0	236 16.1	1234 83.9
	男性6年生	1744 100.0	352 20.2	1392 79.8
	女性5年生	1540 100.0	312 20.3	1228 79.7
	女性6年生	1640 100.0	444 27.1	1196 72.9



(図表IV-3-8)

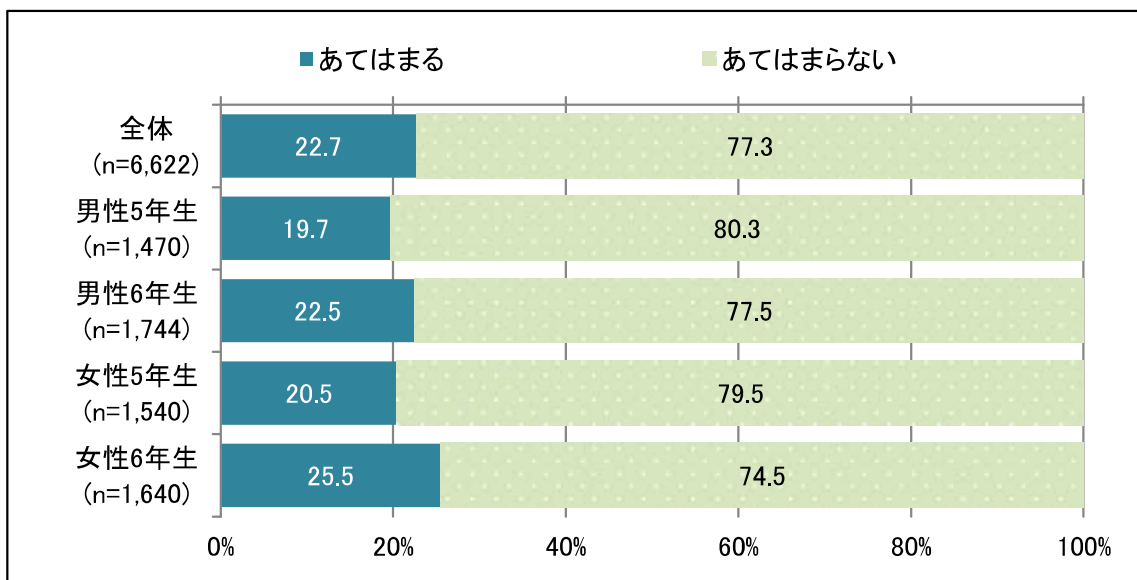
○『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と祖父母や親戚など周りの大人に言われたことがある』について、全体では「あてはまる」(21.3%)で2割を超えている。

学年別で見ると、男性では「あてはまる」について5年生(16.1%)が1割台半ば、6年生(20.2%)が2割となっており、女性では5年生(20.3%)が2割、6年生(27.1%)が3割近くとなっている。



(7) 性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全体		6622 100.0	1501 22.7	5121 77.3
性別・学年	男性5年生	1470 100.0	290 19.7	1180 80.3
	男性6年生	1744 100.0	393 22.5	1351 77.5
	女性5年生	1540 100.0	316 20.5	1224 79.5
	女性6年生	1640 100.0	419 25.5	1221 74.5



(図表IV-3-9)

- 「性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある」について、全体では「あてはまる」(22.7%)は2割を超えている。

学年別で見ると、男性では「あてはまる」について5年生(19.7%)が2割、6年生(22.5%)が2割超えとなっており、女性では5年生(20.5%)がほぼ2割、6年生(25.5%)が2割台半ばとなっている。

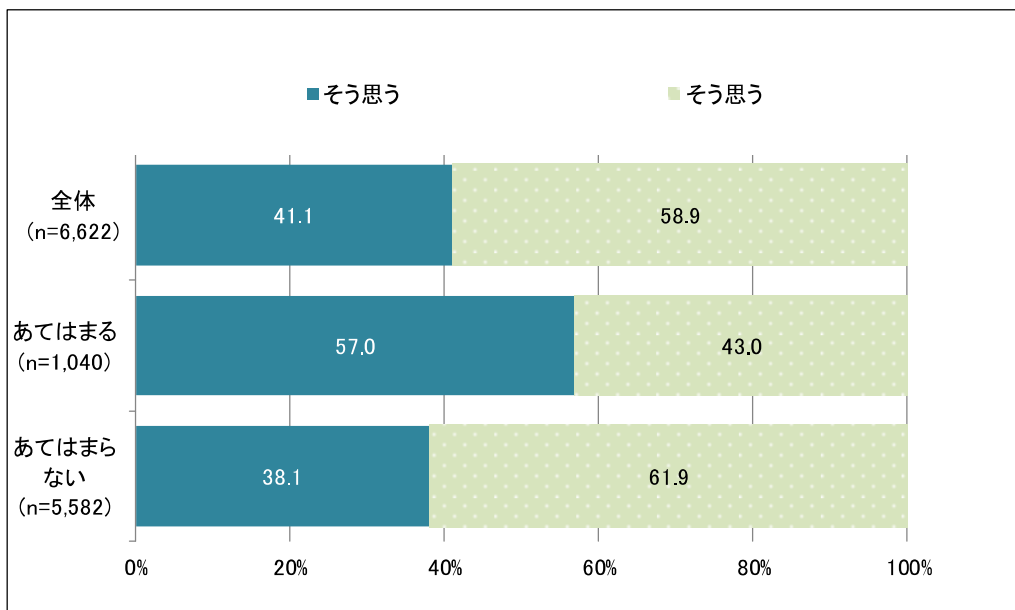
③ 性別に関する意識の形成要因

< 仮説・検討事項(4)>

「周囲の大人の発言」は、「男の子/女の子だからと思う」という児童の意識に影響を与えているか

(1) 「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		6622	2722	3900
		100.0	41.1	58.9
(4) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と先生に言われたことがある	あてはまる	1040	593	447
	あてはまらない	5582	2129	3453
		100.0	38.1	61.9



(図表IV-3-10)

○ 『「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある』について、全体では《そう思う》(41.1%)で4割を超えている。

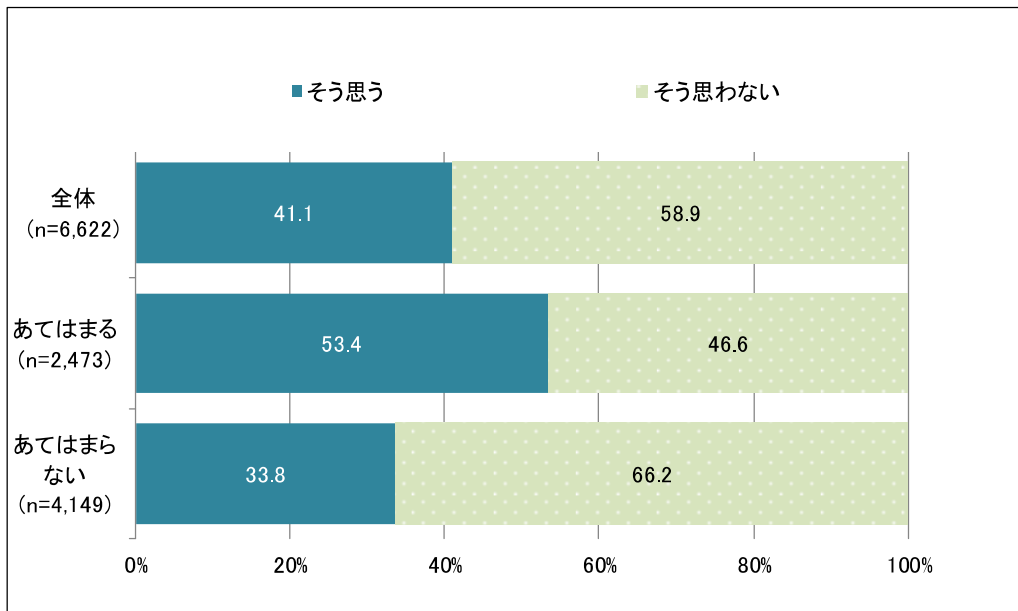
『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と先生に言われたことがある』の回答別でみると、《あてはまる》では《そう思う》(57.0%)が6割近く、《あてはまらない》では《そう思う》(38.1%)が4割近くとなっており、回答割合に大きな差が見られた。

『「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある』について、『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と先生に言われたことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差(p<0.001)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.38であり、やや相関が見られた。

(1) 「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		6622 100.0	2722 41.1	3900 58.9
(5) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と親(保護者)に言われたことがある	あてはまる	2473 100.0	1321 53.4	1152 46.6
	あてはまらない	4149 100.0	1401 33.8	2748 66.2



(図表IV-3-11)

○『「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある』について、全体では《そう思う》(41.1%)で4割を超えている。

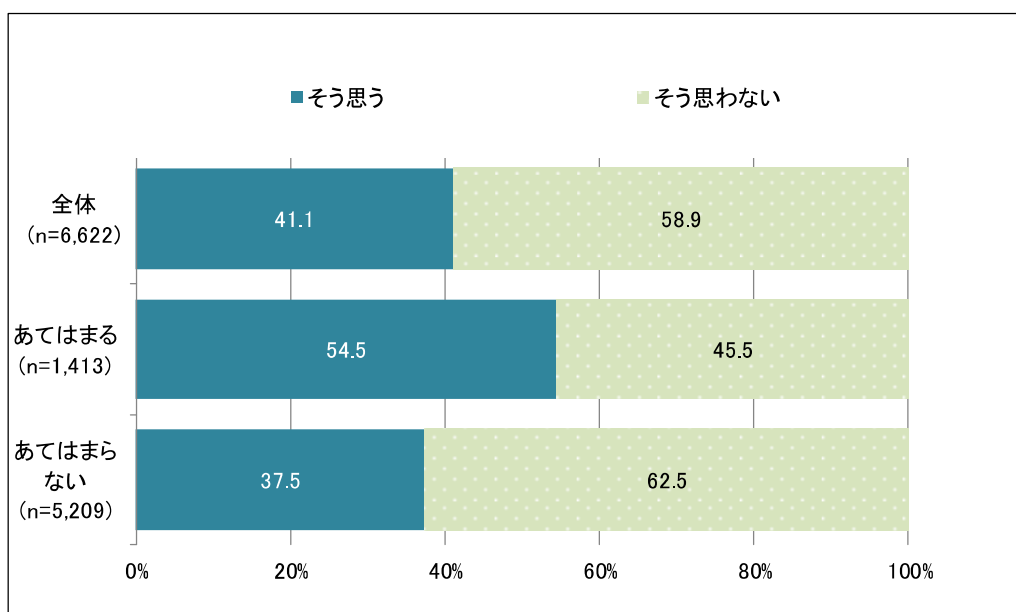
『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と親(保護者)に言われたことがある』の回答別でみると、《あてはまる》では《そう思う》(53.4%)が5割超え、《あてはまらない》では《そう思う》(33.8%)で3割を超えており、回答割合に大きな差が見られた。

『「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある』について、『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と親(保護者)に言われたことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差( $p < 0.001$ )が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.33であり、やや相関が見られた。

(1) 「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		6622	2722	3900
		100.0	41.1	58.9
(6)				
「男の子なんだから」「女の子なんだから」と祖父母や親戚など周りの大人に言われたことがある	あてはまる	1413	770	643
		100.0	54.5	45.5
	あてはまらない	5209	1952	3257
		100.0	37.5	62.5



(図表IV-3-12)

○『「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある』について、全体では《「そう思う」》(41.1%)で4割を超えている。

『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と祖父母や親戚など周りの大人に言われたことがある』の回答別でみると、《「あてはまる」》では《「そう思う」》(54.5%)が5割台半ば、《「あてはまらない」》では《「そう思う」》(37.5%)が4割近くとなっており、回答割合に大きな差が見られた。

『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と祖父母や親戚など周りの大人に言われたことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ( $p < 0.001$ )が見られた。

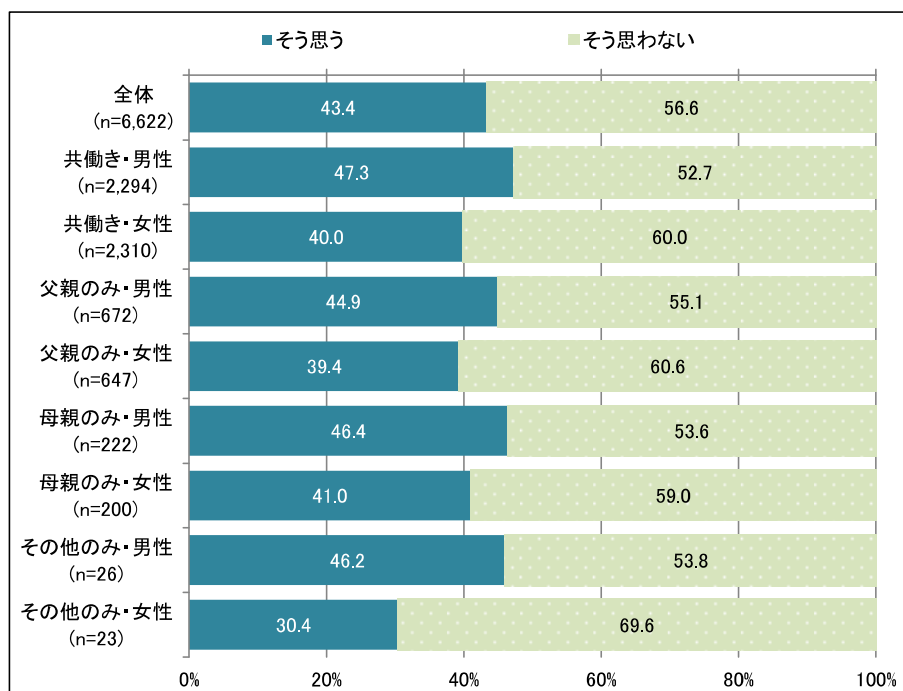
設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.35であり、やや相関が見られた。

< 仮説・検討事項(5)>

**保護者の働き方により、仕事に対する児童の「性別により向き・不向きがあると思う」という意識の差が見られるか**

(3) (将来の仕事について) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		6622	2873	3749
		100.0	43.4	56.6
共働き	男性	2294	1086	1208
		100.0	47.3	52.7
女性	2310	923	1387	
		100.0	40.0	60.0
父親のみ	男性	672	302	370
		100.0	44.9	55.1
女性	647	255	392	
		100.0	39.4	60.6
母親のみ	男性	222	103	119
		100.0	46.4	53.6
女性	200	82	118	
		100.0	41.0	59.0
その他	男性	26	12	14
		100.0	46.2	53.8
女性	23	7	16	
		100.0	30.4	69.6



(図表IV-3-13)

○「(将来の仕事について) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、全体では《そう思う》(43.4%)で4割を超えている。

保護者の働き方別でみると、共働き・父親のみ・母親のみ・その他で、《そう思う》の回答割合で顕著な差は見られなかった。